

解答

- 一
- 問一 A イ B ア C エ
- 問二 ウ
- 問三 自分に近いことは案外わからないことが多く、妙な感情がからまないほうがいいこと（がわかっている点）
- 問四 ウ
- 問五 人間のいちばん大事な部分
- 問六 エ、オ
- 問七 イ
- 問八 エ
- 問九 ア ↓ ウ ↓ イ
- 問十 エ

二

- 問一 A 訪〔れて〕 B 麦茶 C 期限 D 降水 E 洗練
- 問二 エ
- 問三 エ
- 問四 ア
- 問五 河井に電話をかけ、泣きことを云うこと。
- 問六 ウ
- 問七 ア
- 問八 エ
- 問九 音和が父の代わりに、駅まえでのチラシ配りや郵便受けへの投げこみをする事。
- 問十 エ
- 問十一 ウ

解説

一

- 問二 — 線部①の前に着目します。親はわが子のことなら何でも知りつくしているかのように思い込んでいますが、その実は何もわかっていないことが多いことや、警察沙汰をおこした少年の親が口にするせりふは「うちの子にかぎって、そんな……きつとなにかの間違いです」ときままっていることが述べられています。そこで、「思いが強いために、子どもの真の姿を冷静に見つめることができな」という記述を含む選択肢ウが選べます。
- 問十 本文では、遠くのもがよく見えて、近いものが見えにくいという人間の認識の基本的性格について説明しています。近い所のことなら何でもよくわかっていいはずなのに、かえって案外わからないという内容から選択肢エが選べます。

二

- 問七 — 線部⑤の後に、こんなのはフェアじゃないと考える音和の気持ちが描かれ、「伯父に電話をしよう」と決意したときの音和は、父への不当なあつかいに抗議することしか考えていなかった。」という一文があることから、選択肢アが選べます。
- 問十一 本文は音和の立場から話が進められています。両親の離婚に腹をたてていたが、父とのふれあいや出来事を通じて気持ちが変化していく様子が詳しく描かれ、いまの暮らしがさほど苦にならず、父を好きだと迷いなく答えられるようになったことがわかるので選択肢ウが適切です。